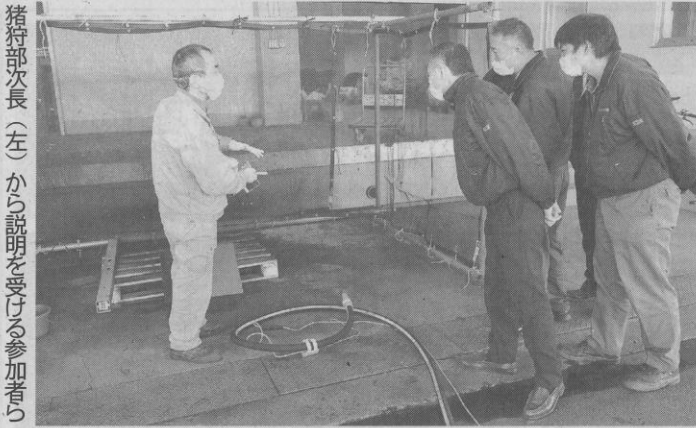


中央コーポレーション・TERUI

湿粒プラスチック工法
気化水溶性防錆剤

説明会で素地調整など実演

㈱中央コーポレーション(花巻市東宮野目、佐々木史昭代表取締役社長)と㈱TERUI(同市中根子、照井則夫代表取締役、県工業技術センターは共同で昨年9月、防錆洗浄剤を使用した構造物の塩分除去対応型洗浄工法を開発。同工法は、鋼構造物の塗替工事において、素地調整で防錆洗浄剤を採用することで塩分除去ができ、下塗り工程までのタリーニング(戻り錆)の発生を防ぐことができる。このほど花巻市のTERUI敷地内での説明会を開催した。説明会では、参加者も素地調整を実践し、粉塵の少なさを装置のコンパクトなどを確認した。

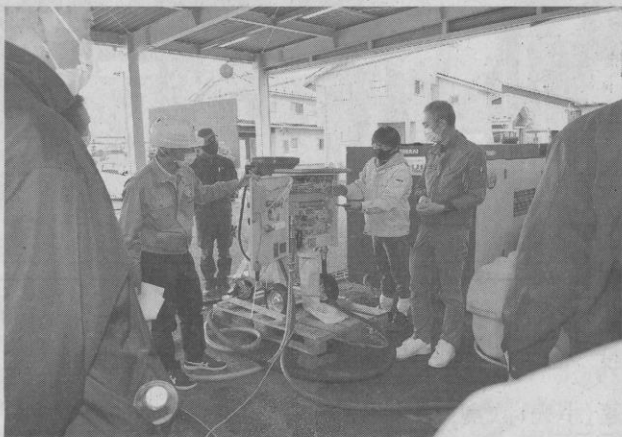


猪狩部次長(左)から説明を受ける参加者ら

説明会には、中央コーポレーションの猪狩部次長、TERUIの照井代表取締役、同大島正太郎工事課長、関係者ら約20人が参加した。

説明会では、猪狩部次長が工法や防錆剤の特徴などを説明。湿粒プラスチック工法で気化水溶性防錆剤を使用するメリットとして、「タリーニング除去の仕上げブラストが不要となり、省工程化を図ることができ。水と研掃材による泥化研掃材は、鋼表面に付着した塩分の除去洗浄も同時に行うことができる。融雪剤散布地域や沿岸部など塩害地域に最適な工法」と紹介

粉塵の少なさを装置の確認



TERUI敷地内での説明会で、参加者はメーカーから装置の説明も受ける(写真上)。実際に素地調整を行う参加者(同下)



「鉛等有害物場合に、湿潤化に適合した。さらに」

大島課長は、「湿粒泥化により有害物質を含んだ粉塵の飛散がほぼなく、鋼材に付着した塩分も除去できる。粉塵使用した構造物の塩分が少なく、視認性除去対応型洗浄工法が開発。今年3月には、県の新技術等活用促進事業に登録されていること」など。

説明会では、参加者も素地調整を実践し、粉塵の少なさを装置のコンパクトなどを確認した。

含有する塗料の剥離を、1工程で同様も受けた。実際に素地調整を行った小山内堅治さんは「粉塵の飛散が少ないと感じた。装置が小型で、ホースも扱いやすいため施工しやすいと思う」と感想を話した。

中央コーポレーションとTERUI、県工業技術センターは、昨年9月に防錆洗浄剤を開発。今年3月には、県の新技術等活用促進事業に登録されていることなど。

と説明した。

参加者も錆びた鉄板や支柱で素地調整することも、装置の説明

物の省エネ改修の工事